

内科第1

1. 臨床医学教育の現状と評価

(1) 臨床医学教育の目標

- 1) 内科総合医として内科全般の幅広い知識とともに最先端の医学に精通した専門医を育成する。
- 2) 単に知識と技術を習得するのみならず、患者から信頼される医師としての優れた人間性を兼ね備えた医師を育成する。

(2) 医員、医員（研修医）の現状と研修実績

1) 初期研修医の現状について

a. 研修実績について（対象期間：平成9年度～12年度）

入局者数と本院での研修期間（月数：平均値）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
入局者数	10人	8人	6人	7人
研修期間	11ヶ月	10ヶ月	10ヶ月	10ヶ月

b. ローテート方式研修の実績

平成9年度：0人

平成10年度：0人

平成11年度：2人、研修した他科名：皮膚科、心臓血管外科

平成12年度：2人、研修した他科名：第一外科、麻酔科

2) 医員の受入れ状況（対象期間：平成9年度～12年度）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
採用者数	11人	11人	11人	12人

(3) 指導体制について

- 1) 研修医1年目は基本的に附属病院の病棟勤務とし、糖尿病・代謝、内分泌、循環器、腎臓、消化器、膠原病、心身症の入院患者を中心とした診療と研修を行う。
- 2) 基本的にはそれぞれの受け持ち患者を各専門分野の指導医と共同主治医で受け持ち、指導医よりマンツーマンで指導を受ける。また、カンファレンス、症例検討会、研究会などに参加・発表することで研修を充実させる。
- 3) 1年次に本院の他臨床科へのスーパーローテーションを行い、内科以外の領域についても研修を行う。2年次以降の研修は教育効果の高い関連研修施設で、内科一般の第一線医療に携わるとともに、救急や呼吸器、血液、神経疾患などの専門性の高い領域について研修を行う。

(4) 研修の評価について

- 1) 第一内科が独自に作成した臨床研修目標に沿って教官・医員が研修の指導に当たり、1年次終了の際に研修評価表を用いて研修の到達度を個別に評価する。
- 2) また、教育関連施設においても2年目以降の研修到達度を同様の研修評価表を用いて評

価してもらおう。

(5) 関連研修施設の現状

- 1) 大分県立病院 2) 大分赤十字病院 3) アルメイダ病院
- 4) 九州厚生年金病院 5) 国立九州医療センター 6) 浜の町病院
- 7) 湯布院厚生年金病院・東国東広域病院

(6) 臨床教授

山口 康平 (大分県立病院 内科部長 糖尿病)

(7) 認定医・専門医・指導医の取得状況 (平成9年度-12年度)

- 1) 日本内科学会/認定医88名、専門医5名
- 2) 日本循環器学会/専門医16名
- 3) 日本糖尿病学会/認定医5名、指導医3名
- 4) 日本消化器病学会/認定医6名

(8) 学会認定施設の状況

- 1) 日本内科学会教育認定施設
- 2) 日本循環器学会認定施設
- 3) 日本糖尿病学会認定施設
- 4) 日本消化器病学会認定施設

※今後の課題と改善策

- ・幅広い内科一般の研修 (general medicine) とともにより専門性の高い医療の研修 (speciality) を十分行えるようにするため、関連研修施設との連携を高め、より充実した研修が行えるようにする。
- ・充実したスーパーローテーション確立のために他科との連携を深める。
- ・関連研修施設においても各種認定医、専門医の所得が行えるようにする。

2. 臨床医学研究の現状と評価

(1) 臨床医学研究の目標

基礎医学に精通するとともに臨床医として医学および医療の進歩に貢献できるような高度かつ先進医療を進めるため臨床に直結した研究を中心に行う。

(2) 研究スタッフ

教授 1名、助教授 1名、講師 2名、助手 5名
実験助手 (非常勤職員を含む) 2名
事務職員 (非常勤職員を含む) 3名

(3) 研究領域と研究課題 (対象期間: 平成9年度-12年度)

主な研究課題名

中枢神経によるエネルギー代謝調節、1型糖尿病および肥満糖尿病に対する中枢性抗糖尿病作用の解明、中枢性の神経内分泌や免疫機能調節の解析、虚血再灌流障害の分子生物学的解析、モデル動物を用いた潰瘍性大腸炎治療法の開発、血圧調節の中枢制御、摂食障害の脳内メカニズムの解明と治療的アプローチなど。

(4) 博士 (医学) の学位の取得状況 (平成 9 年度 - 12 年度)

年 度	9 年度	10 年度	11 年度	12 年度
取得者数	3 名	3 名	4 名	4 名

(5) 学会、研究会活動 (シンポジウム、特別講演、学会役職等)

年 度	9 年度	10 年度	11 年度	12 年度
学会発表 (国際)	15回	6回	1回	7回
(国内)	63回	48回	89回	73回
(地方)	65回	57回	63回	75回
(司会・座長)	13回	11回	7回	8回
シンポジウム特別講演等				
(国際)	6回	8回	5回	3回
(国内)	19回	19回	16回	16回
(地方)	94回	71回	102回	89回
(司会・座長)	24回	20回	20回	19回

学会役職 (評議員、理事等) (平成 9 年度 - 12 年度)	
日本内科学会	坂田利家 (評議員)
日本心身医学会	坂田利家 (評議員) 吉松博信 (代議員)
日本薬理学会	坂田利家 (評議員)
日本生理学会	坂田利家、吉松博信 (評議員)
日本肥満学会	坂田利家、吉松博信 (評議員)
神経科学協会	坂田利家、吉松博信 (専門員)
日本臨床代謝学会	坂田利家 (評議員)
日本糖尿病学会、日本循環器学会、日本心臓病学会、日本消化器病学会、日本内分泌学会、日本膠原病学会、日本肥満学会、日本腎臓病学会、日本体質学会、日本冠疾患学会、日本臨床リウマチ学会、日本人類遺伝学会、日本肝臓学会、日本癌学会、日本心血管インターベンション学会、日本透析学会、日本学術振興会	坂田利家 (特別研究員等審査会専門委員)

(6) 研究論文 (英文, 和文) (平成 9 年度 - 12 年度代表論文 10 編)

- 1) Hidaka S, Yoshimatsu H, Kondou S, Oka K, Tsuruta Y, Sakino H, Itateyama E, Noguchi H, Himeno K, Okamoto K, Teshima Y, Okeda T, Sakata T: Hypoleptinemia, but not hypoinsulinemia, induces hyperphagia in streptozotocin-induced diabetic rats. J Neurochem, 77, 993-1000, 2001
- 2) Masaki T, Yoshimatsu H, Chiba S, Watanabe T, Sakata T: Targeted disruption of hista-

- mine H1-receptor attenuates regulatory effects of leptin on feeding, adiposity, and UCP family in mice. *Diabetes*, 50, 385-391, 2001
- 3) Masaki T, Yoshimatsu H, Chiba S, Watanabe T, Sakata T: Central infusion of histamine reduces fat accumulation and upregulates UCP family in leptin-resistant obese mice. *Diabetes*, 50, 376-384, 2001
 - 4) Tatsukawa M, Kurokawa M, Tamari Y, Yoshimatsu H, Sakata T: Regional fat deposition in the legs is useful as a presumptive marker of antiatherogenesis in Japanese. *Proc Soc Exp Biol Med*, 223, 156-62, 2000
 - 5) Masaki T, Yoshimatsu H, Chiba S, Sakata T: Impaired response of UCP family to cold exposure in diabetic (*db/db*) mice, *Am J Physiol*, 279, R1305-R1309, 2000
 - 6) Hidaka S, Yoshimatsu H, Kakuma T, Sakino H, Kondou S, Hanada R, Oka K, Teshima Y, Kurokawa M, Sakata T: Tissue-specific expression of the uncoupling protein family in streptozotocin-induced diabetic rats, *Proc Soc Exp Biol Med*, 224, 172-177, 2000
 - 7) Hanada R, Nakazato M, Matsukura S, Murakami N, Yoshimatsu H, Sakata T: Differential regulation of melanin-concentrating hormone and orexin genes in the agouti-related protein /melanocortin-4receptor system, *Biochem Biophys Res Comm*, 268, 88-91, 2000
 - 8) Hidaka S, Kakuma T, Yoshimatsu H, Sakino H, Fukuchi S, Sakata T: Streptozotocin treatment upregulates uncoupling protein 3 expression in the rat heart, *Diabetes*, 48, 430-435, 1999
 - 9) Kang M, Yoshimatsu H, Kurokawa M, Ogawa R, Sakata T: Prostaglandin E2 moderates activation of hypothalamic histamine by interleukin-1 β in rats, *Proc Soc Exp Biol Med*, 220, 88-93, 1999
 - 10) Yoshimatsu H, Itateyama E, Kondou S, Tajima D, Himeno K, Hidaka S, Kurokawa M, Sakata T: Hypothalamic neuronal histamine as a target of leptin in feeding behavior, *Diabetes*, 48, 2286-2291, 1999
- (7) 高度先進医療開発研究の現状
- 1) 肥満糖尿病の発生と治療法に関する脂肪組織 in vivo microdialysis 法を用いた臨床研究
 - 2) 慢性肝炎のインターフェロン治療の至適投与法の開発、肝癌の非手術的治療として高周波焼灼法 (RFA) の臨床応用
 - 3) 発作性心房細動におけるカテーテルアブレーション治療の開発
 - 4) 虚血性心疾患における不安定プラークの血管内視鏡における評価法の開発
- ※今後の課題と改善策
- ・疾患特異遺伝子の同定による遺伝子治療の検討、分子生物学的アプローチによる糖尿病治療法の開発などを今後の課題として検討中であるが、研究費の確保等が継続的な問題としてあげられる。
 - ・これに対して、科学研究費などの公的助成金のより一層の積極的申請、その他、各種団体からの資金的援助の応募等が必要であると思われる。

3. 診療の現状と評価

(1) 診療の目標

- 1) 大分医科大学は研究・教育機関であると同時に県民に高度かつ良質な医療を供給する義務を負う。
- 2) これを達成するために附属病院や関連施設において医局員おのおのが誠意と熱意を持って診療を送るとともに日々医療の研鑽を積むこととする。

(2) 診療実績（平成9年度－12年度）

区 分	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
外 来 患 者 数	19,851人	20,640人	21,262人	21,820人
初 診 患 者 数	1,038人	899人	893人	794人
紹 介 患 者 数	447人	443人	455人	430人
入 院 患 者 数	17,267人	17,246人	17,980人	17,734人
平均在院日数	40.5日	34.1日	35.2日	32.9日
平均病床稼働率	98.6%	98.4%	102.3%	101.2%
死 亡 退 院 率	4.1%	2.3%	1.4%	2.5%
剖 検 率	58.8%	36.4%	28.6%	46.2%

(3) 特殊検査・手術症例等

- 1) 心臓カテーテル検査、心臓電気生理検査、経食道心臓超音波検査、冠血管内視鏡、血管内超音波検査、スワングアンツカテーテルによる心機能評価、腎生検、肝生検、各種消化器内視鏡検査、腹腔鏡検査、ヘッドアップチルト検査、神経伝導速度検査、心拍変動による糖尿病性神経症の評価、冠動脈内心電図、冠動脈内ドップラー血流検査
- 2) 人工透析シャント形成術、埋め込み型除細動器植え込み術、永久式ペースメーカー植え込み術、経皮的冠動脈インターベンション（PTCA、ステント、DCA）、経静脈的僧帽弁交連裂開術

(4) 特殊専門外来

臓器別外来（糖尿病、内分泌、循環器、腎臓病、肝臓病、心身症）を既に行っており、それ以外にも肥満外来、膠原病外来を午後行っている。

(5) 高度先進医療・先端医療の導入

- 1) 肝臓癌に対する高周波通電（RFA）治療
- 2) 頻脈性不整脈に対するアブレーション治療（県内で当科のみ）
- 3) 致死性不整脈（心室細動、心室頻拍）に対する埋め込み型除細動器による治療（県内で当院のみ）

※今後の課題と改善策

- ・臓器別診療に対応すべく、当科もより専門的かつ高度先進医療が行えるよう、様々な面から取り組みを行っている。
- ・また、一方で全身性疾患（例えば糖尿病、膠原病など）に対して総合的な診療が出来るように各診療グループ間の連携も重要視している。

4. 国際交流について（平成9年度－12年度）

（1）国際医療協力体制

- 1) 臨床・研究面の充実を図るため国内のみならず国外の医療機関、研究施設と人的・物質的交流を深める。
- 2) そのため海外からの留学生の積極的な受け入れと、海外留学を推進する。
- 3) 肥満糖尿病に関するドミニカ共和国との国際共同研究を行っている。

（2）留学（長期外国出張）

- 1) ルイジアナ州立大学（アメリカ合衆国）、平成9年4月－平成11年3月、1名
- 2) ルイジアナ州立大学（アメリカ合衆国）、平成9年6月－平成11年5月、1名
- 3) サウスキャロライナ州立大学（アメリカ合衆国）、平成10年6月－平成12年4月、1名
- 4) サウスウェスタンメディカルセンター（アメリカ合衆国）、平成10年7月－平成12年9月、1名

（3）外国出張（国際学会活動など）

1) 平成9年

- ・ Symposium: In World Intermediate Congress of Clinical and Experimental Pathophysiology. 「Histamin research: Past, present and the future」. 1人、ブルガリア
- ・ Abstracts of Original Contributions 3rd International Conference of Nuclear Cardiology. 2人 イタリア
- ・ The 16th International Diabetes Federation Congress. 2人、フィンランド
- ・ American Heart Association 70th Scientific Session. 1人、アメリカ合衆国

2) 平成10年

- ・ Plenary Lecture: 3rd International Congress of Pathophysiology 1998. 1人、フィンランド
- ・ Symposium: Joint Congress of IUPS Commission of Physiology of Food and Fluid Intake (ICPFFI) XII and Society for the Study of Ingestive Behavior (SSIB) '98. 1人、ハンガリー
- ・ 8th International Congress of Obesity. 1人、フランス
- ・ An Official Satellite Meeting of the 8th International Congress on Obesity. Endocrinology of Obesity: Basic, Clinical and Therapeutic Aspects. 1人、イタリア
- ・ Digestive disease week and the 97th annual meeting of the gastroenterological association (DDW). 1人、アメリカ合衆国
- ・ 58th Scientific Sessions, American Diabetes Association. 2人、アメリカ合衆国
- ・ Int. Congress Obesity. 1人、フランス

3) 平成11年

- ・ Experimental Biology '99. 2人、アメリカ合衆国
- ・ Proceedings of Korea-Japan Ginseng Symposium. 1人、韓国

4) 平成12年

- ・ The International Behavioral Neurosciences: Symposium on Peptidergic Neurons and Energy Balance in the Hypothalamus. 1人、アメリカ合衆国
- ・ Danone's Workshop: Stress and Unnutrition. 1人、フランス
- ・ American Gastroenterological Association Meeting. 1人、アメリカ合衆国

- ・ 73rd Scientific Sessions, Americal Heart Association. 1人、アメリカ合衆国
- ・ 3rd International Symposium on Angiotensin II Antagonism, 2000. 1人、イギリス

(4) 外国人研究者の受け入れ状況

年 度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
目 的	研 究	研 究		
受 入 人 数	2	2		
出 身 国 名	ベトナム、 タンザニア	ベトナム、 タンザニア		
滞 在 期 間	H9.4~H10.3	H10.4~H11.3		
費 用 負 担	国 費	国 費		

※今後の課題と改善策

- ・ 今後とも国外の留学、外国人研究者の受け入れなど積極的な国際交流を行い、研究の充実を図るため、平成13年度は5名の医師が国外留学予定である。なお外国人研究者の受け入れに対しては常時申し込みはあるが、文部科学省の予算が限られているため十分な受け入れが出来ないのが現状である。

5. 国内学会や研究会の開催（平成9年度－12年度）

診療科で担当した地方学会・研究会、全国規模の学会・研究会

学 会 等 の 名 称	開催期日	参加人員	発表形式	その他
日本内科学会九州地方会	H9.5	500名	口 演	
日本体質学会	H10.10	700名	口 演	
日本ヒスタミン研究会	H10.11	200名	口 演	
日本心身医学会九州地方会	H12.2	700名	口 演	

※今後の課題と改善策

- ・ 坂田教授を会長とした研究会、学会は随時行っている。平成13年度には第39回日本糖尿病学会九州地方会が大分市で行われる予定である。しかしながら学会開催には多くの人手と予算が必要であり、公的な資金援助も望まれる。

6. 地域との関わり

診療科で担当した大分県内の研修会、研究会について

研 修 会 等 の 名 称	開催頻度	参加人員	発表形式	認定医資格継続適合の有無
大分循環器診療懇話会	年2回	50名	一般演題 特別講演	なし
South Medical Conference	年3回	30名	一般演題 特別講演	なし
臼津不整脈懇話会	年2回	20名	一般演題	なし

※今後の課題と改善策

- ・ 今後とも研究会を積極的に行うことで地域医療との交流や情報交換、医療の向上を図る様にとめる。

7. 診療科の特色

- (1) 第一内科は肥満糖尿病、高血圧症、高脂血症、虚血性心臓病などのいわゆる生活習慣病に対する診療に主軸をおいており、予防医学、疾病のコントロール、および合併症に対する治療などの幅広い診療を行っている。
- (2) 肥満糖尿病、循環器、腎臓、消化器、膠原病、内分泌、心身症などの幅広い内科診療を行っているが、高い専門性とともによりそれぞれの専門分野の連携も重視し、全人的医療を行うことを目標としている。
- (3) 単に既存の医療にとどまらず、その基礎となる医学研究にも力を入れ、医学の進歩に貢献することを目標としている。

8. 将来展望

- (1) 今後は臓器別診療を含め、内科もより一層専門化が進むと考えられ、各種認定医、専門医の所得が必須になると思われる。これに対して付属病院のみならず関連教育施設の充実を図り、これらの認定医・専門医の所得を推進する。
- (2) また医学の進歩に伴って高度医療が普及し、同時に医療の多様性から医療事故の増加も危惧される。これに対しては医局員一人ひとりが十分な危機管理意識を持つことが必要であろう。
- (3) 医療費の高騰や経済の低成長時代、高齢化などで医療をめぐる環境は厳しさを増していくだろう。大学病院を含めた国公立病院の医療にも経営を含めた改革の必要性が議論されているが、このような意識の改革は医局員一人ひとりにも必要である。